

# 古田沢砂防えん堤の整備推進

## 山形県西置賜郡小国町

### 1. 事業の概要

#### 1) 目的

荒川左支金目川流域に位置する古田沢は、昭和42年羽越災害時に土石流が発生している土石流危険溪流です。

集落を横断する町道は上流集落に通じる唯一の生活道路であり、この道路が土石流等で被災した場合、奥の集落は孤立化してしまいます。

そのため、土砂災害による直接被害の防止及び孤立化対策として砂防えん堤を整備します。

#### 2) 全体計画

○重力式コンクリートスリットダム

高さ：12.0m 長さ：57.0m

○護岸工

長さ：330.0m

### 2. 事業の経緯

平成17年度 本体工事着手

平成20年度 完成予定

### 3. 平成18年度補正予算（ゼロ国）の内容

砂防えん堤本体及び前堤保護工の早期完成を図り、土石流被害の防止に向けて整備を進めます。



下流上空より上流を望む



ダムサイト上流崩壊状況  
(平成16年8月撮影)



施工状況(平成18年12月撮影)

# 千曲川：立ヶ花下流部無堤地区対策を推進

～安心して暮らせる川づくり

無堤地区の解消に向けて事業推進～

長野県中野市

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

千曲川の立ヶ花下流部は川幅が狭く、無堤・弱小堤が連続しており洪水を安全に流すことができないため、昭和56年、57年、58年と連続した大出水では、甚大な浸水被害が生じたことから、同規模の洪水を安全に流すことを目的に、無堤地区対策を計画的に実施しています。

平成16年10月台風23号出水、平成18年7月梅雨前線豪雨出水では、現在整備中の無堤地区において浸水被害が発生したことから、早期の完成を目指して堤防整備を推進します。

### 2) 全体計画

柳沢地区：築堤760m、樋門1基

替佐地区：築堤1,450m、樋門3基

## 2. 事業の経緯

整備にあたっては、甚大な浸水被害が想定される家屋連担箇所を中心に築堤を実施してきており、全体12箇所のうち平成16年度までに6箇所が概成しています。

中野市柳沢地先については平成14年度に着手、中野市（旧豊田村）替佐地先については平成10年度に着手し、現在事業を実施しています。

## 3. 平成18年度補正予算の内容

中野市柳沢地区の堤防整備を完成させます。

H18年7月梅雨前線豪雨による  
千曲川の出水状況



# 災害対策用機械の増強配備

## 豪雨災害における浸水被害に備えた 排水ポンプ車の配備(長野県内)

### 1. 事業の概要

#### 1) 目的

平成18年7月豪雨災害における浸水対応では、長野市など長野県内の6市町村の要請により、北陸地方整備局から6台の排水ポンプ車を派遣し、延べ9箇所において排水活動を実施しました。

内水被害の防止・軽減を目的として、排水ポンプ車の配備を推進します。

### 2. 事業の経緯

平成18年度までの排水ポンプ車整備状況（北陸地整管内の防災センター及び事務所配備）※平成18年度契約済み台数含む。

- |          |             |                |
|----------|-------------|----------------|
| ・会津地区 2台 | ・下越・新潟地区 7台 | ・信濃川中流・中越地区 3台 |
| ・上越地区 3台 | ・千曲川地区 3台   | ・富山地区 5台       |
| ・石川地区 1台 | 計 24台       |                |

### 3. 平成18年度補正予算の内容

補正予算の投入により、長野県内の千曲川河川事務所に排水ポンプ車1台を増強配備します。



排水ポンプ車(30m<sup>3</sup>/min級)



# 葛葉床固工群の整備推進

## 長野県北安曇郡小谷村・新潟県糸魚川市大所

### 1. 事業の概要

#### 1) 目的

葛葉床固工群（葛葉第1号床固工、葛葉第2号床固工、葛葉第2号上流床固工）は設置から20年以上経過した設備で、姫川流域で未曾有の被害が発生した「平成7年7月出水」においては、その効果を発揮した施設であるが、経年的損傷が著しく平岩雨量観測所において総雨量291mmを記録した平成18年7月15日～19日の梅雨前線による豪雨では、姫川本川は異常な出水となり、葛葉第2号床固工水通し部分及び護床ブロックの洗掘損傷の拡大が確認されました。

損傷の拡大は異常洗掘によるものであるため、異常洗掘拡大を防止するため最下流部に帯工2基の設置、施設効果を復元するために損傷を受けた床固工と護床工の補強をおこないます。

#### 2) 全体計画

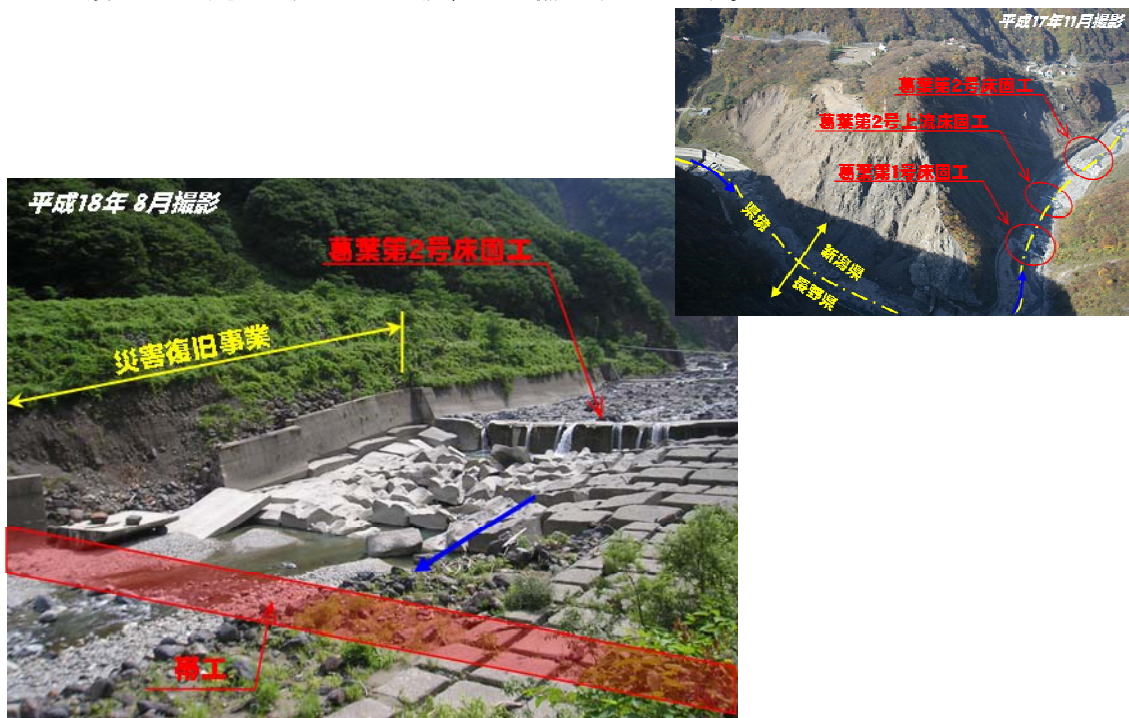
- 床固工補修：3基
- 護床工補修：約10,000m<sup>3</sup>
- 帯工：2基

### 2. 事業の経緯

- 昭和51年度 葛葉第1号床固工工事着手
- 平成元年度 葛葉第2号上流床固工完成
- 平成7年度 「平成7年7月出水」により被災
- 平成17年度 梅雨前線による出水で損傷箇所増

### 3. 平成18年度補正予算の内容

今後の出水によりさらなる洗掘損傷を受けることを防止するため、葛葉第2号床固工護床工の下流に帯工1基を設置し整備を推進します。



# おたり 一般国道148号小谷道路事業推進

## きたあずみ 長野県北安曇郡小谷村

### 1. 事業の概要

小谷道路は、一般国道148号の線形不良、幅員狭小等の交通隘路区間の解消を目的とした延長約4.6kmの道路です。

昭和63年度に直轄権限代行の一次改築事業として関東地方整備局において事業着手をしました。

平成5年度より小谷村大字穴平あなだいらから同村大字北小谷きたおたり間の延長約4.6kmを北陸地方整備局に移行し、平成12年度までに延長約3.3kmを暫定2車線で供用しています。

平成18年度は光明地区こうみょうの舗装工事を推進し、11月17日に新光明沢橋しんこうみやうさわばしの供用を行いました。

### 2. 事業の経緯

○昭和63年度 事業着手

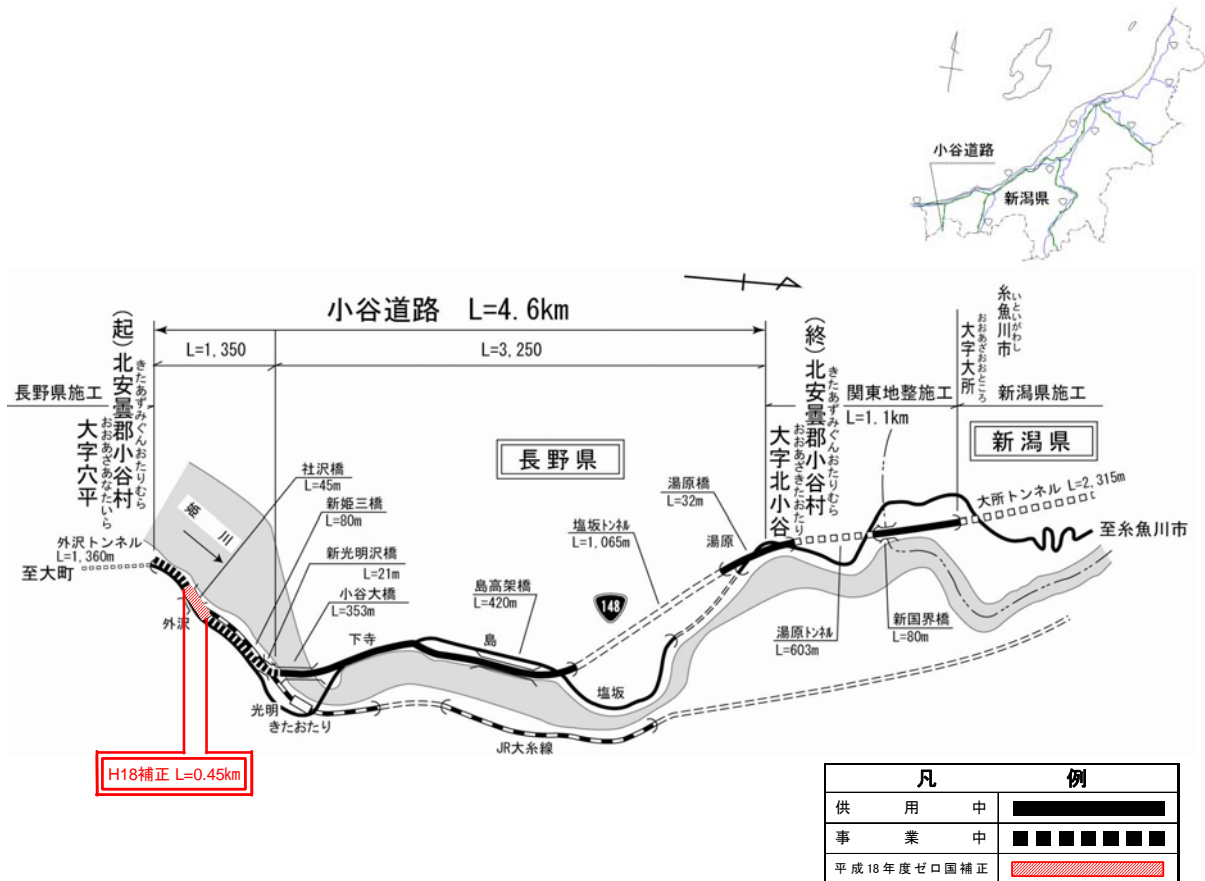
○平成9年度 小谷村下寺しもでら～小谷村北小谷きたおたり 約2.3km 供用済

○平成12年度 小谷村須村すむら～小谷村下寺 約1.0km 供用済

○平成18年度 新光明沢橋 約0.1km 供用済

### 3. 平成18年度補正予算（ゼロ国）の内容

補正予算の投入により、線形不良、幅員狭小等の交通隘路区間の早期解消を目指し、工事の円滑な推進を図ります。



そでがたに  
**外ヶ谷第2号上流砂防えん堤補強**  
 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷

**1. 事業の概要**

1) 目的

平成18年7月の梅雨前線豪雨により、神通川水系砂防管内では土石流により砂防施設が被災しました。

なかでも蒲田川左支川外ヶ谷では土石流により砂防えん堤が大きな被害を受けたため、災害復旧事業により再度災害の防止を図ります。さらに外ヶ谷第2号砂防えん堤でも護岸の洗掘のため、次期融雪出水では倒壊の危険性があることから、補強を実施し安定を図ります。

2) 全体計画

- 外ヶ谷第2号上流砂防えん堤護岸：根継ぎ
- 災害復旧事業：えん堤2基

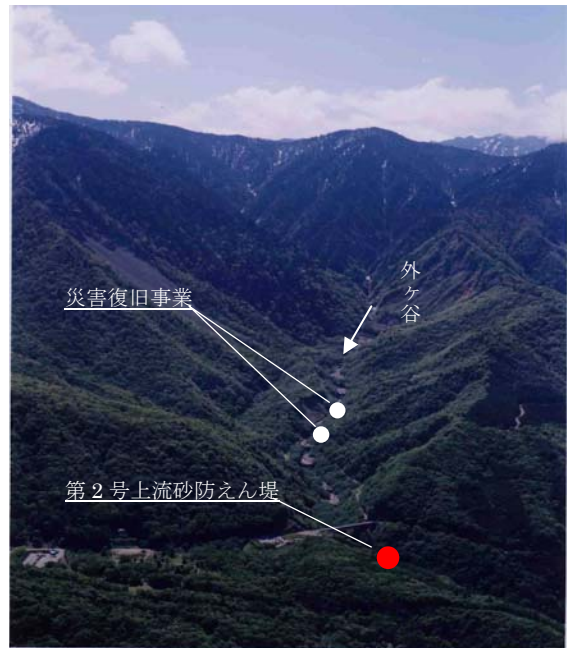
**2. 事業の経緯**

○平成18年7月梅雨前線豪雨により外ヶ谷において土石流が発生。砂防えん堤2基が被災したため、災害復旧事業により対応。

○第2号上流砂防えん堤の下流護岸でも洗掘被害。

**3. 平成18年度補正予算の内容**

外ヶ谷第2号上流砂防えん堤の護岸補強対策を実施し、再度災害の防止を図ります。



外ヶ谷第2号上流砂防えん堤護岸



平成18年7月17日発生土石流(外ヶ谷)



# 多目的国際ターミナル[岸壁(-14m)②]の整備推進

つるがこう つるが  
敦賀港：福井県敦賀市

## 1. 事業の概要

敦賀港への入港船舶の大型化と増大する港湾貨物に対処するため、<sup>まりやまみなみ</sup> 鞠山南地区に大型岸壁を整備して港湾物流コストの削減を図ります。

## 2. 事業の経緯

平成8年度より事業着手し、平成19年度の完成を目指しています。

## 3. 平成18年度補正予算（ゼロ国）の内容

補正予算の投入により、<sup>うらごめこう</sup> 裏込工等の施工を行い、岸壁整備を円滑に推進します。



敦賀港(鞠山南地区)多目的国際ターミナル イメージパース

# 敦賀港海岸 海岸環境整備事業の整備促進

つるがこう  
敦賀港海岸（福井県敦賀市）

## 1. 事業の概要

### 1) 目的

赤崎地区は、北陸自動車道敦賀インターチェンジおよび一般国道8号線から近く交通の便も良いことから、関西・中京方面の海水浴客で賑わっていたが、近年の侵食作用による砂浜の減少や、進入路や駐車場、利便施設等が無いなど海浜利用をする上での低サービス水準により、海水浴場としての魅力が低下していることを指摘されています。

そのため、離岸堤や突堤、護岸などの海岸保全施設の整備とともに海洋性リゾートゾーンの拠点として相応しい施設の整備を進めていきます。

### 2) 全体計画

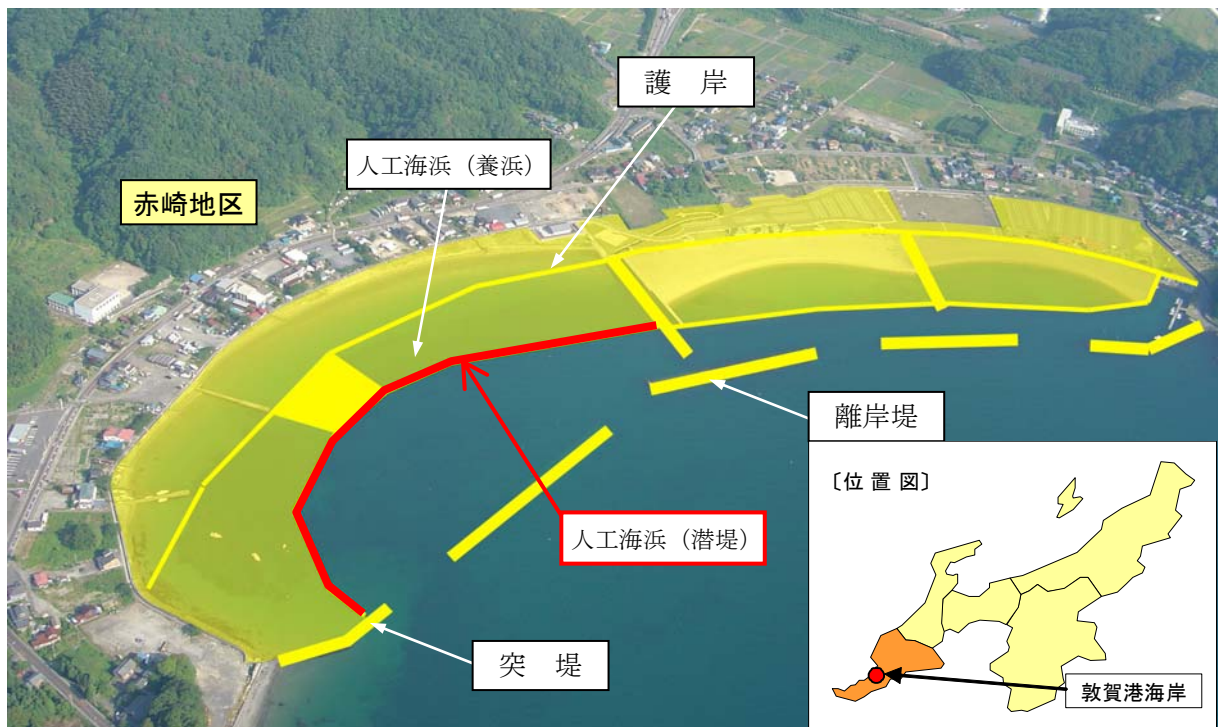
福 井 県：離岸堤、突堤、護岸等：昭和61年度～平成25年度（赤崎地区）

## 2. 事業の経緯

昭和61年度に事業を着手し、これまでに離岸堤440m、突堤4基が完成し全体計画も約7割程度の進捗が図られています。また、養浜の完了している区間では供用が開始され、多くの海水浴客に利用されています。しかし、残区間においては、砂浜の消失が著しく、冬季風浪時に越波被害等が生じていることから、引き続き海岸保全施設の整備促進を図ります。

## 3. 平成18年度補正予算の内容

補正予算の投入により、人工海浜（潜堤）の整備促進を図ります。



敦賀港海岸（赤崎地区）の事業計画